

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立成章中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート、保護者アンケート共に本校の教育活動に対する評価は、どの項目も良い結果であった。また、全職員で協働的な学びに取り組むことを通して、魅力ある学校づくりに取り組むことができた。 全国学力・学習状況調査では、全国平均以上の結果を収めることができた。 不登校生徒数の減少が課題。新たな不登校を生まないことをめざし、次年度も引き続き不登校対策に力を入れて取り組みたい。 ICTの効果的な活用を意識した取り組みを充実し、教育活動の改善をしていく必要がある。
2 学校教育目標	<p>豊かに 自他を高め 章（あや）を成す</p> <p>成章の心（世の中を明るく照らす明るく、弱いものを助け自らのプライドを高める正しい心で物事を判断・行動し、誠心誠意の姿に感動する美しい心）で自らの良さを伸ばすとともに他人の良さを尊重する。それぞれの良さを織りなし、美しく物事を成し遂げることで、絆感（居場所のある安心感、仲間への信頼感と思いやり、多様な考えを尊重する人権感覚で結ばれた感覚）や3観点の学力を獲得する。</p>
3 本年度の重点目標	<p>(1)【合理的配慮の提供】インクルーシブデザインの視点をもって教育活動を仕組む。</p> <p>(2)【不登校対策】生徒一人一人に絆感を育み、新たな不登校の生徒を生まないようにする。</p> <p>(3)【学力向上】主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図り、学習ログを蓄積し、学びを可視化することで生徒の学習改善につなげる。</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実させた授業に取り組む。	○生徒アンケート「授業内容は分かりやすい」の肯定的回答80%以上 ○県や国などの学習状況調査と比較し、本校の学力が向上している。	・全国の普通学級の授業で、「協働的な学び」の充実のために、効果的に「話し合う活動」を設定する。	A	・授業は分かりやすいと答えた生徒が91%であった。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた、分かりやすい授業に取り組んだと答えた教職員が94%であった。	A	・授業が分かりやすいと答えた生徒が91%はすばらしい。 ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に取り組み、分かりやすい授業を実施できているのではないかと、学力検査において、全国や県平均より高い数値が見られ、学校の取組が伝わりました。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	①学校評価等で学校生活が楽しいと感じた生徒8割以上 ②自己肯定感、自己有用感について、1年を通して高まるように指導する。	・生徒指導の4機能を意識した多様な教育活動を通して、生徒が様々な課題に挑戦し、多様な他者と協働することのよさを実感させる。	A	・学校評価において、96%の生徒が学校生活が楽しいと回答しており、目標を大きく上回った。生徒指導の4機能を生かし、生徒が自己肯定感を感じている結果だと考えられる。しかし、4%の生徒が楽しくないと回答しており、個別支援を丁寧にしていく必要がある。	A	・生徒の96%が学校生活が楽しいと答えており、目標を大きく超えている。楽しくないと答えた4%の個別支援が、今後の課題とらえている。 ・生徒同士の間関係や先生と生徒の間関係もさることながら96%の生徒が学校生活が楽しいというのはいい。 ・学校が楽しいと感じている生徒も多いが、回答していない生徒がどうなのかも気になります。 ・学校が楽しいと思うことがストレスフリーな生活につながり、心身共にいい成長につながっている。	・学級担任 ・学年担当者 ・教育相談担当 ・生徒指導主事
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 そのために、そ・し・き・人対応の実践 そ：早期把握 し：初期全力対応 き：記録対応 人：人権意識高く、多様性を認め組織で対応	○いじめの重大事態へと発展してしまうケースをゼロにする。	①相手の立場への共感に基づく、一人一人の多様性を認め、人によっては考え方を日々の実践を通して生徒に手を変え品を変えて伝える。人は、立場によって同等ではないが、立場を超えた時、人としては対等 ②いじめ情報のアンテナを鋭敏にし、そしき人対応を実践 ③いじめ防止対策委員会年間2回以上 ④いじめ重大事態に対する平時からの備えができているかチェックリストを活用する。	①相手の立場への共感に基づく、一人一人の多様性を認め、人によっては考え方を日々の実践を通して生徒に手を変え品を変えて伝える。人は、立場によって同等ではないが、立場を超えた時、人としては対等 ②いじめ情報のアンテナを鋭敏にし、そしき人対応を実践 ③いじめ防止対策委員会年間2回以上 ④いじめ重大事態に対する平時からの備えができているかチェックリストを活用する。	A	・いじめの重大事態へと発展してしまうケースはなかったが、いじめの認知件数は数多く見られた。これは職員や生徒がいじめに対する意識の高さと考えられる。どのトラブルも早期発見、早期解決を目標に組織で対応することができた。 ・いじめ防止対策委員会を2月に開き、いじめ事案の発生状況や指導方法、被害者へのケアなど様々な視点で、議論することができた。	A	・トラブルに対し、早期発見、早期解決にいちめ事案の発生状況や指導方法、被害者へのケアなど様々な視点で組織で対応している。 ・いじめアンケートの実施を毎月行うことは本当に大変だと思います。先生方の日常も大変だと感じます。 ・いじめの実態はなかなか正確に見えにくいと思うが、重大事態に至らなかったのは、しっかり対応されているからだと思います。 ・思春期の子供たちを、重大事態になる前の早期対応に感謝します。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 ●「安全に関する資質・能力の育成」	○「朝、自分で起きている」と回答する生徒70%以上 ○「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ●生徒の交通事故を(ゼロ)にする	・小・中連携組織の家庭の学び部会での推進や保護者への啓発(保健だより「食育だより」)を行う。 ・登下校時の交通指導を年間を通して行う。 ・生徒会を中心とした啓発活動の推進	B	・「朝、自分で起きている」と回答する生徒72%、「健康に良い食事をしている」と回答する生徒92%を達成することができた。今後も望ましい生活習慣の形成に向けて啓発を行いたい。 ・年間の交通事故件数が11件発生。登下校時の自転車の乗り方に対して外部からの苦情もあつた。校内放送や街頭での見守りを実施したが、実際に自転車を使つて交通安全教室が実施できなかったため、来年度は実施したい。	B	・起床、食事は本来家庭教育である。望ましい生活習慣の形成に取り組みされている。登下校での自転車の乗り方の教育の徹底をお願いします。 ・「健康的にいい食事をしている」と92%の生徒が回答しているのはすごいです。交通安全については、ルールが変わってきたことからも校内での自転車指導が必要だと考えます。 ・中学生という年齢には、講義形式より具体的な状況で体感できるような交通安全教室の方が心に残りやすいと思います。 ・自転車の育切符制度導入されるので、交通ルールの熟知をお願いします。	・養護教諭 ・交通安全担当 ・生徒会担当
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 ●生徒指導事業があつても年間720時間以内の超過勤務時間実践100%	・定時退勤日の設定(水曜日) ・学校閉庁日の設定 ・部活動ガイドラインの遵守、部活動休業日の設定 ・年間を履通した計画的な年次取得	B	・年次休暇の取得日数が14日以上で教職員が10人(23%)であった。職員1人当たりの平均取得日数は、10日6時間56分であった。 ・超過勤務時間年間720時間以内は全教職員が達成見込みである。 ・部活動休業日については毎月確認定定である。毎週水曜日を定時退勤日としているが、退勤でなかった日も多かつた。	B	・年間超過勤務時間720時間以内は全教職員が達成できる見込みである。設定している定時退勤日とともにさらに努力を継続してください。 ・先生方の年次休暇取得については難しいところですね。部活動休業日もほぼ達成しているところで生徒の学習意欲が伸びていますね。 ・先生という立場上、学校が休みの期間しか休みが取りにくいと思えます。時間外で同じ量の業務をこなすのにも無理があり、人員補充できたらいいのですが。 ・残業時間が減少することを願っています。	・管理職 ・部活動担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○勤務時間を意識した働き方を浸透させる。ワークアンドライフバランスを実現するために、教職員が自己管理の中のタイムマネジメントに関わる資質・能力を向上させる。	○教育者として、健康で、かつ、充実した1年だったと答える職員90%以上。 ○ライフステージをカバーし合う雰囲気がある職員90%以上であったら100%を指し示して、管理職が職員に伝える。 ○コロナ禍明けで、コロナ禍に前向きではなく、コロナ禍の知恵も生かした新しい学校行事等の工夫	・衛生・健康管理委員会を年3回以上実施 ①毎月のゼロの日の取り組みの充実、不祥事ゼロ ②ライフステージをカバーし合う雰囲気があると答える職員90%以上であったら100%を指し示して、管理職が職員に伝える。 ③コロナ明けで、コロナ禍に前向きではなく、コロナ禍の知恵も生かした新しい学校行事等の工夫	B	・「不祥事ゼロ」を全教職員が意識していたが、軽微なものを含め、交通事故が3件発生した。 ・時間外在校時間は、12月までの平均で30時間29分であり、前年度よりも約5時間の短縮ができている。 ・職員間で、お互いにカバーやフォローし合う雰囲気があると答えた教職員の割合が100%であった。 ・年度途中で病休取得した職員が複数名おり、教職員として、健康かつ充実した1年だったと答えた教職員の割合は90%にとどまった。	B	・職員間でカバーやフォローし合う雰囲気100%であれば、時間外在校時間はさらに短縮できるのでは。 ・健康管理には食事や十分な睡眠でストレスを抱え込まない。 ・年度途中で病休取得した先生がおられることは大変だと思います。先生方の心のケアも必要ですね。 ・不登校や特別支援教育、部活動など業務が多い中、カバーし合うのが当たり前のような雰囲気でも少しも負担が減っていくべきだと思います。	・管理職 ・教務主任 ・養護教諭 ・各行事担当教員
●特別支援教育の充実	○合理的配慮を必要とする生徒に限らず、本来受けるべき利益を受けられるよう手立てを講ずる。 ○個別の教育支援計画から、自立活動を生徒に関わる全ての職員が共有し、協働した教育活動を展開する。	○日々の生活面や学習面などの支援体制を充実させるため、個別の教育支援計画、個別の指導計画を必要とする生徒に対し、その作成を100パーセント達成。 ○教員のほか、学校生活支援員、特別支援教育支援員を配置し、支援を必要とする生徒1人への週2時間以上の授業帯同(合理的配慮)を100パーセント達成。 ○生徒、保護者や小学校との情報共有を行い、時間割作成や授業内容、学校行事などにおいて、生徒が安心して過ごせる教育支援体制の整備を100パーセント達成。	・担任を中心に全職員で生徒の実態把握、情報共有を行い、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成後に、特別支援学級担当職員で内容を確認する。 ・教員のほか、学校生活支援員、特別支援教育支援員の時間割を作成する。また、教員と支援員の情報共有の機会を作る。 ・生徒、保護者面談、小学校との連携会議を計画・実施する。 ・小・中連携会議や保護者面談を実施し、生徒、保護者や小学校との情報共有を行った。時間割作成や授業内容、学校行事などにおいて、生徒が安心して過ごせる教育支援体制の整備を100%達成した。	A	・日々の生活面や学習面などの支援体制を充実させるため、個別の教育支援計画、個別の指導計画を必要とする生徒に対し、その作成を100%達成した。個別の教育支援計画、個別の指導計画を確認し、学習面や生活面の指導を行っている教職員が91%であった。 ・教員のほか、学校生活支援員、特別支援教育支援員を配置し、支援を必要とする生徒1人への週2時間以上の授業帯同(合理的配慮)を100%達成した。 ・小・中連携会議や保護者面談を実施し、生徒、保護者や小学校との情報共有を行った。時間割作成や授業内容、学校行事などにおいて、生徒が安心して過ごせる教育支援体制の整備を100%達成した。	A	・教職員及び生徒、保護者との情報共有を認め、生徒が安心して過ごせる教育支援体制を100%達成することができている。 ・個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成するのが大変だと思います。 ・負担が増え、簡単ではない取組だと思えます。先生だけでなく、生徒も含めて学校全体で助け合える関係になったらと思います。(理想論ですが) ・教職員と支援員の活躍でいい結果が出ていると想像されます。引き続きよろしくお願いいたします。	・学級担任 ・学年担当者 ・学年主任 ・教務主任 ・各行事担当者 ・教育相談担当 ・生徒指導主事
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育								
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査では、平均以上の結果を収めることができているので、維持していきたい。 インクルーシブデザインの視点を持って教育活動に取り組むことができた。また、教職員間での情報共有、関係機関との連携により、生徒一人一人にきめ細やかな指導を行うことができた。 生徒、保護者、教職員アンケート共に本校の教育活動に対する評価は、全体的に良い結果であった。個々の課題に対しては工夫改善し、よりよい学校づくりに取り組むたい。 生徒用端末の活用と学習ログの取組を継続しながら、教職員の授業改善、生徒の学習改善につなげる教育活動を推進していく必要がある。 							

●学力の向上	○一人一台端末を用いて、すべての教科で学習ログを活用する。	○「学習ログを用いたことで、自分から進んで学ぶことが以前よりもできるようになったか」(肯定的回答80%以上)	・全職員が「学習ログ」を効果的に活用した授業を実践するように、研修会を開催する。 ・業績評価表(自己目標申告書)の学習指導の重点取組内容に学習ログの活用について明記する。	B	・学習ログを用いたことで、自分が学んだことや学び方を振り返ることができたと答えた生徒が73%以上であり、成果指標にわずかに上りすぎた。 ・学習ログを活用して、授業改善を行った教職員が77%にとどまった。	B	・学習ログの活用が今後定着していく中で効果がはっきり見えてくると思います。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●特別支援教育の充実	○合理的配慮を必要とする生徒に限らず、診断のない、いわゆるグレーゾーンの生徒に対して教育的支援を充実させ、インクルーシブ教育を推進する。	○個別最適な学びである「インクルーシブデザインの視点を持って授業改善を図ったか」(肯定的回答80%以上)	・佐賀大学准教授による定期的な講義及び模擬授業、演習を実施する。 ・「自己理解」をキーワードに、自立活動やインクルーシブデザインの視点を持って授業改善を図る。	A	・佐賀大学准教授による「自己理解」をテーマにした自立活動の模範授業を実施した。 ・個別最適な学びである「インクルーシブデザインの視点をもって授業改善を図った」という教職員が90%以上であった。	A	・生徒一人一人への細やかな指導を期待します。	・特別支援教育コーディネーター